

平成 29 年度版

1 層生活支援
コーディネーター
活動事例集

はじめに

事例集の作成にあたって

横浜市では平成 28 年度から生活支援体制整備事業が始まり、160 名近い生活支援コーディネーター（以下生活支援 Co）が誕生しました。第 2 層は地域ケアプラザ（又は特別養護老人ホーム併設型地域包括支援センター）に、第 1 層は区社会福祉協議会に配置されました。

第 1 層生活支援 Co は、その区の区社協職員の中から任命されました。区社協のネットワークや助成金等の支援制度、ボランティアセンター等の既存事業との連動、地域ケアプラザとの一層の連携が期待されたためです。

この事例集では、18 名の第 1 層生活支援 Co の 1 年半の取組の一部を取り上げました。地域住民や関係機関の方々と模索しながら進めてきた初年度の取組について、多くの方にご覧いただければ幸いです。

掲載事例について

この事例集では、各区から特徴的な事例を 1 つずつ取り上げました。掲載していない事例も含め、各区の取組を基に、第 1 層生活支援 Co の取組を現時点では以下のように整理しました。

分 類	内 容	掲載事例
A 区内の基盤整備	地域支援に必要な基本的なツール（地域アセスメントの様式など）の整備や、区内の 2 層生活支援 Co の連絡会や研修による学習、相互研鑽の機会づくりなど。	西、旭、港北、都筑
B 2 層域の取組支援	2 層生活支援 Co とともに、地区社協や自治会に働きかけをし、地域づくりを支援。	鶴見、神奈川、港南、金沢、緑、戸塚、栄、瀬谷、
C 1 層域の取組	①区域で、地域向けの研修の実施、地域活動のマニュアルの作成、助成金制度の整備などを行うことで、結果的に 2 層域の活動を後押し。 ②広域に活動する団体（NPO、民間企業等）のネットワークなどによる、2 層域では解決が難しい課題への取組。	中、南、保土ケ谷、磯子、青葉、泉

当初、1 層生活支援 Co の活動としては、「B 2 層域の取組支援」や「C 1 層域の取組」が想定されていました。しかし、2 層生活支援 Co の 4 割近くが CP 新配属であったことや、従来の地域支援のツールや手法がそれぞれの機関ごとに独自に進められていたこと等により、「A 区内の基盤整備」の必要性が高くなりました。

また、2 層域の活動を進めていくには、2 層生活支援 Co と 1 層生活支援 Co が協力して地域にアプローチすることが有効な場合や、2 層域の活動を後押しする支援施策も重要であることが再認識されました。区内のスポーツクラブや小売り事業者などと連携したネットワークづくりなど、新たな「C 1 層域の取組」に着手し始めた区社協もあり、今後はこの比重が増えていくことが予想されます。

目次

A 区内の基盤整備

西区：役割・業務を見える化する！	1
旭区：地域づくりに向けて一致団結!!	3
港北区：「感覚」を「確かな根拠」に！	5
都筑区：情報も目標も一つに！	7

B 2層域の取組支援

鶴見区：坂の多いまちでもあきらめない！地域で作る地域のお店	9
神奈川区：「地域のことは俺たちで!!」	11
港南区：☆要支援高齢者の夢叶えます！プロジェクト☆	13
金沢区：想いをカタチに！助けあいちよいぼう団体の結成に向かって!!	15
緑区：区社協は CP の応援団！	17
戸塚区：こども食堂は金の卵	19
栄区：(さ)あ(か)たちにしよう(え)んづくり	21
瀬谷区：“お互いさま”で支えあおう！	23

C 1層域の取組

中区：区域協議体を活用した家事支援に関するアセスメント	25
南区：みんなで取り組む“ちょこっとボランティア”のつながりづくり	27
保土ケ谷区：『支えあいの仕組づくり勉強会』で取組加速！	29
磯子区：認知症サポーター活躍の仕組づくり！	31
青葉区：これからも 2 層 Co と共に！	33
泉区：高齢者の外出をみんなでお助け！	35

略字表記

※この冊子では、次の用語については()内の表示とします。

- | | |
|------------------|----------------------------|
| ・地区社会福祉協議会（地区社協） | ・地域ケアプラザ（CP） |
| ・区社会福祉協議会（区社協） | ・地域包括支援センター（包括） |
| ・市社会福祉協議会（市社協） | ・地域活動交流コーディネーター（地域交流 Co） |
| ・民生委員・児童委員（民生委員） | ・生活支援コーディネーター（生活支援 Co） |
| ・地区連合町内会（地区連合） | ・第 1 層生活支援コーディネーター（1 層 Co） |
| ・自治会町内会（自治会） | ・第 2 層生活支援コーディネーター（2 層 Co） |
| ・地域福祉保健計画（地福計画） | ・生活支援体制整備事業(体制整備事業) |

西区

役割・業務が見える化する！

～組織内・外に生活支援 Co を理解してもらうために～

学識者にアドバイスをもらいながら、生活支援 Co の行動記録を区内統一様式で作成しました。



西区社協
富士原 祐子



1

取組のきっかけ

♡ 1層 Co の思い

「生活支援 Co って何をする人？」

事業開始当初、1層・2層 Co 業務とは何か、地域の方や区社協内、また他の福祉に携わる人に対して、そして生活支援 Co 自身にとっても、**理解しにくい、説明しにくい**というのが、ひとつの大きな課題でした。

そんな時、東京都文京区の「こまじいの家」を見学させていただく機会がありました。

その中で、地域支援に取り組みながら生活支援 Co の「**活動記録**」を作成することで、**社会資源の立ち上げに至るまでの専門職の動きやプロセスが明確になっている**ことに気がつきました。

そこで、区社協でも1層 Co・2層 Co の業務や役割、成果を可視化させることで、地域福祉活動者や他の社会福祉従事者にも理解してもらう「活動記録」を作成することになりました。区社協と全 CP と共に進めるため、区社協が各 CP を回ってご意見を伺うなどして、検討に入りました。

西区は小さな区ではありますが、それぞれの CP の運営法人が異なり、本事業への取組もそれぞれでした。

1層 Co としては、区と共に、全 CP で統一した意識や動きをつくるのが最初の課題でした。活動記録を始めたことは、そのひとつにつながっていると感じています。

【2層 Co の声】

- ・最初は面倒だった記録も、慣れてくると楽しくなってきました。自分はこれだけやったんだ！実感がわきます。
- ・分析については、運営協議会にも使用しています。



西区生活支援 Co の皆さん

2

取組の内容

共通の記録シートの作成は、文京区社協、豊島区社協の様式を参考に、生活支援 Co 連絡会などで検討を重ねました。また記録自体の客観性を高めるため、作成にあたっては、明治学院大学専任講師の榎原美樹氏に協力を仰ぎました。

<項目について>

- 2層** 何らかの支援を必要とする個人やその家族を対象として行われる「個別支援」（関係形成・直接支援・連絡調整）と、地域のボランティアや活動団体等を対象として行われる「地域支援」（関係形成・立上支援・運営支援・連絡調整）その他啓発広報活動や研修・各種会議等の 14 項目を置いた。
- 1層** 各 CP の「個別支援」に対する支援、「地域支援」に対する支援の項目を設けるとともに、1層 Co 独自の活動として、関係形成・相談調整・立上支援・運営支援・情報の収集提供・連絡調整などの項目を置いた。

また、榎原氏には、生活支援 Co が記録した行動記録について分析をして頂きました。活動の数値化、可視化が出来るよう報告書にまとめています。

■ 2層 Co 行動記録シート（一部抜粋）

活動日	年	月	日	時間帯	地区	対象	活動コード	個人コード	会議名 (会議、活動、 研修の名称)	内容 (生活支援Co の関わり)	相手方の反応	生活支援Coの 思い・気づきなど	新規対応	個別支援	地域支援	啓発広報	人材育成	研修	区推進会議	プラザ推進会議	2層連絡会	その他関係業務

■ 1層 Co 行動記録シート（一部抜粋）

新規対応	2層支援										1層独自の活動									
	戸部本町		宮崎		藤棚		浅間台		2層Co連絡会		人材育成		モニタリング		関係形成		相談調整		立上支援	
	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援	個別支援	地域支援

<平成 28 年度の作成状況>

■作成者

2層 Co 4名

1層 Co 1名

■期 間:平成 29 年1月～3月

■総活動件数:2層(4か所)合計 266 件

1層 183 件

3

今後に向けて

これからも、引き続き記録を蓄積していき、社会資源の充実や開発において、生活支援 Co がどのような役割を果たしてきたか可視化できるようにすることで、2層 Co が自分の業務や役割を意識しながら取り組めるよう、また周囲の協力を得ながらすすめることができるよう、お手伝いをしていきたいと思います。

毎日の自分の記録を書くことで、地域支援のプロセスを明確にしていくと共に、生活支援 Co 自身が行動の目的や自分の役割を認識したり、次の行動を考える整理にもなります。また、分かりにくい本事業において、成果が見えることはモチベーションを保つひとつになっています。

さらに、単に記録をつけるだけではなく、自分たちの記録に学識者からしっかりとアドバイス、分析してもらい、客観的な視点で評価をして頂くことで、よい刺激になっています。

～地域支援担当者の継続的な話し合いの「場」づくり～

地域支援をメインに活動をしている区社協（１層Ｃｏ、地区担当職員）とＣＰ（２層Ｃｏ、地域交流Ｃｏ）が、支援の方向性やちょっとした情報の共有等を目的に情報交換会を開催しました。



旭区社協
梅木 博志

1

取組のきっかけ

よりよい地域を作っていくためには、困っている人の気持ちや想いに耳を傾け、**困っている人や困りごとをなんとかしたい！と考える理解者を住民の中に増やし、情熱や想いを持って活動してくれる人を増やす**ことが必要です。

そのためにも、地域づくりを支援する「支援者」は、住民とはもちろんのこと、支援者間でも、同じ方向性を持って活動をしていかなければ、成果を上げることができないだけでなく、かえって住民を混乱させてしまうことにもなりかねません。

しかし、住民はその地域に住み続けていきますが、支援者の側は人事異動や退職などで、その地域から離れることもあります。また、**地域支援を進めるためには、方向性がぶれない『継続性』が重要**ですが、新しくその地域の担当者になった職員の地域支援の経験が浅いことなどから、そうできないこともあります。

旭区には 19 の地区、12 の CP があります。平成 28 年 4 月に生活支援Ｃｏが区社協と各 CP に配置されたことにより、地域支援をメインとして仕事を進める『仲間』が大きくなりました。このことにより、地域支援を進めるにあたり、今まで以上に**支援の方向性を共有し、一致団結して取り組む**ことが重要になりました。そこで、区社協（１層Ｃｏ、地区担当職員）CP（２層Ｃｏ、地域交流Ｃｏ）が定期的（毎月か隔月）に顔を合わせ、**地域支援の方向性や方針を確認したり、地域情報を共有する「場」として『情報交換会』を開催**することになりました。

♡ 1層Ｃｏの思い

区社協地区担当による地域支援や地域交流Ｃｏの活動には歴史があります。その面で２層Ｃｏが学ぶことは多くあります。しかし、それぞれが通常業務に追われていたり、会議や地域行事等で顔を合わせても、なかなか支援方針やちょっとした情報交換をすることがなかなかできません。

だからこそ、じっくり話す場が必要だと思いました。



笹野台地区社協 津久井事務局長

地区社協事務局長として参加し、地区の課題などの話をさせて頂きました。場所を変えて飲みニケーション。ざっくばらんに情報交換ができました。頂いた情報を今後の活動に活かしていきたいと思います。

2

取組の内容

『情報交換会』は区社協地区担当者が、各担当 CP に連絡し、日程調整を行います。開催は毎月か隔月。場所は各 CP です。

話し合いの内容はいろいろです。**地域支援方針の確認や地域活動への関わり方の相談、進行中の取組の打ち合わせや重点的に関わるエリアを決める作戦会議**などの“固い”内容はもちろん、地域の人間関係や噂話などの“柔らかい”内容も情報交換します。雰囲気もそれぞれで、お茶を飲みながらの穏やかな雰囲気もあれば、熱く議論しあう緊張感！？のある雰囲気もあります。

CP は地域に一番近い施設として、日常的に住民と関わりがあります。ボランティア活動者や老人会関係者、民生委員など、実際に活動している住民の支援だけでなく、**包括では個別に困りごとへの相談や支援**を行っています。

区社協は、地域活動を進める立場の住民との関わりが比較的強くあり、定例的な会議などで顔を合わせます。また、個別支援の事業も実施しており、様々な相談を受けています。



鶴ヶ峰 CP との情報交換会

CP と区社協は、それぞれがかかわる人により、人間関係や持っている情報の種類が違います。

お互いに持っている“もの”を交換することで、**地域を立体的に見立て、その支援策について共有し、同じ方向性を持ちながら、“一致団結”して地域支援に取り組むことができるようになりました。**

情報交換会では『関係性を深める』ことに重点を置きました。1 層 Co としては各 CP の 2 層 Co、地域交流 Co と関係性を深めることで区域全体の動きを把握することができています。その他に区社協地区担当と 2 層 Co、地域交流 Co の関係や区社協内の 1 層 Co と地区担当、CP 内の 2 層 Co と地域交流 Co の関係性を深めることもできています。

3

今後に向けて

平成 29 年度 6 月から CP ごとにスタートした情報交換会は、すでに様々な変化が生まれています。とある情報交換会では、**地区社協事務局長（兼民生委員）を交えて開催することになりました。**話し合いの内容を**地区活動に直接反映していこう**というものです。また、別の情報交換会では、ゲストに**地区民児協会長をお招きし、地域で起きている課題の共有や地域団体の実情や関係性など、具体的なお話をお伺いしました。**



地域の方を交えての情報交換会兼暑気払い！

さらに別の情報交換会では、CP 所長にもご参加いただき、話し合いの内容を CP の取組につなげたり、地域の取組にすぐにつなげられるようにしています。今後も、情報交換会が区社協と CP にとって、さらには地域にとっても有意義なものになるよう、継続して開催していきます。

港北区

「感覚」を「確かな根拠」に！

～まちを知る・資源を知る～

区内勤務経験の長い生活支援 Co が多かった港北区では、情報の見える化、地域の分析をしていくことに着眼。何回も話し合いを重ね、区内 9 館の CP・5 法人で同じ様式を用いて CP・区・区社協の 3 者で地域支援の方針を考えることができました。



港北区社協
片桐 明日美



1

取組のきっかけ

♡ 1 層 Co の思い

体制整備事業が始まり生活支援 Co が配置された年、初回の 2 層 Co 連絡会に集まってきた顔ぶれは、区内の勤務歴が長い職員ばかりでした。包括職員、地域交流 Co など、エリアのことや地域住民とのつながりはすでに深い皆さん。「さあ生活支援体制整備、何から取り組んでいきましょう」といった時に挙がったのが、**地区アセスメント**でした。

「すでによくわかっている」「高齢者の住民像もある程度把握できている」という意見がある中で改めて様式を定めてアセスメントする意義や目的は何か。ベテランが揃っているからこそその話し合いがありました。

「情報を生活支援 Co だけが知っているのではもったいない。職員全員で取り組む事業だからアセスメントもみんなでやらなければ」「区社協は独自の様式があるが、ばらばらでやっても意味がないよね」「区と包括保健師が作成している、地区診断との関係はどうする？」など…区の高齢担当、事業企画係も同席しての話し合いには、**それぞれの立場からの既存の様式・書式の整理・共有が課題**となりました。紆余曲折があり、予想以上に難航しましたが、一致していた思いは、**みんなで同じ方向を向かないと地域支援の意味がない**ということ。市社協の地区アセスメントのフォーマットをベースに、**港北区オリジナルのアセスメントシートを作成し、地域分析を行いました。**

市社協のアセスメントシートを、区社協と市社協運営の CP だけで使っていることに疑問を持っていました。

同じ目線で地域を捉えて分析する方が人が異動しても情報が継続し、区内の底上げになるに違いない…と考えましたが、項目の整理など意見の擦り合わせは、各々の職員の思いもあったため難しい作業であり、また熱意の伝わる検討の場面でした。

アセスメントシート

アセスメント直後の連絡会は活発な意見が飛び交いました。1 層 Co にとって手探りだった連絡会が、この頃から変わっていききました。

「データの見せ方研修がしたい」「個別相談から課題を抽出する方法が知りたい」「空き家の活用について勉強したい」「記録の取り方を考えたい」などの意見が出ました。

2

取組の内容

この事業の展開にあたって必要な項目を洗い出し、様式を定め所長会などではなかった後、いよいよ地区分析開始。1月から2月にかけて、各 CP の定例カンファレンスなどの場を利用して、**CP 5 職種・区社協地区担当・区の高齢担当・事業企画係が一堂に会し、アセスメントが行われました。**担当地区が多く、複数回にわけて実施した CP もありました。

2 層 Co のみなさんが日程調整から下準備まで、大変な作業を精力的に行っている中、1 層 Co としてはとりまとめが主の仕事ではないと感じながらも、基礎情報の把握にとどまっていた。

そこで区域の情報を分析するため、助成件数が市内 1 位である「港北みんなの助成金」を活用している高齢者支援団体を洗い出し、**活動場所をマップにしようと考え、**



団体の活動場所データを地図に落としました。

マップ上に可視化すると、サロンの空白地帯や家事支援ボランティアの偏りが見えました。

職員でマップを共有し各地区について課題を意見交換したところ、通常の会議などでは出にくい地域の方から耳にする「現場感」のある意見を職員がお互いに知ることができました。

職員間で地区の課題を意見交換

他区では 1 層協議体の取組も始まる中、港北区としての取組について悩んでいた時、助成金担当職員から、港北区は 250 件近い助成団体がいるのに量の多さに追われ、関わりが薄くもったいないという話がありました。なにげない会話でしたが「あ、これだ！」と思い、団体情報の整理と職員間での意見交換につながりました。

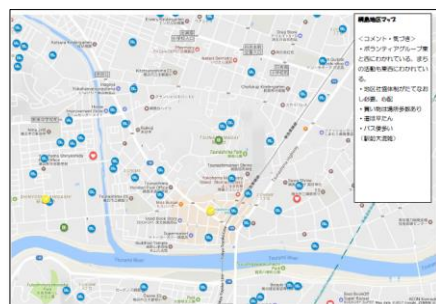
3

今後に向けて

作成したアセスメントシートを活かすための研修がしたい！との声を受け、**JAGES（日本老年学的評価研究）の方に、データの分析と地域資源を結び付ける研修**を生活支援 Co と共に企画・実施をしました。

CP ではアセスメントした情報を基に『外出困難の課題を発見しデサービスの車を利用した買物ツアー』や『担い手講座』、『居場所づくりの話し合いの場』の企画など、**アセスメントの内容を具体化する動き**が始まりました。

助成金情報の分析については、今まで様式になかった「活動場所の住所」を加え様式を充実させることに発展し、**アセスメントの成果が日々の地域支援に広がりを見せています。**



平成 29 年 8 月にデータ分析の研修を行いました

都筑区

情報も目標も一つに！

～地域アセスメントと目標の共有からつながる取り組み～

課題を共有し目標を検討するため、区で統一した様式を作成し運用することで、CPと区、区社協の3者で共有しやすい環境を整えました。



都筑区社協
大橋 竜太郎



課題・目標シート

1

取組のきっかけ

♡ 1層 Co の思い

地域の取組のきっかけとなる地域アセスメントについて、CP及び区の保健師による圏域別地域診断シート、地域振興課の地区カルテ、区社協の地域アセスメントシートなど様々な様式がありましたが、様々な会議に出席する中で、3者間で十分に共有がされていないことに気付きました。

アセスメントをすることで状況や課題を整理し、それらの解決のための取組につなげていくことが必要であると、すでに多くの会議で話し合われていました。

年度当初の区と区社協との話し合い、**3者で把握しているアセスメント内容の共有**のため、区で統一したアセスメントシートを作成することになりました。

さらに、**アセスメントから見た課題にどのように取り組んでいくのか見える化も必要**ということで、課題・目標シートも区で統一して作成することにしました。

この目標については、第3期都筑区地福計画の「高齢者分野の取組の推進」の内容と取組方針が異ならないように、計画の一部の項目をシートに反映させることや、同期間の5か年（平成28年～32年）の目標を入れる項目を設けることになりました。

これら「地域アセスメントシート」「課題・目標シート」の様式については、都筑区体制整備推進会議を中心に、CP所長会議やCo連絡会などで、**どのような項目が今後の取組のために必要か、意見交換を重ねながら様式を作成しました。**

区内5館あるCPのうち、3館のCPの2層Coが新たに配属された方がいる状況でした。そのため、アセスメント等の様式があることで、それをツールとしてCP内で話し合ったり、3者で情報共有や支援方針の話し合いができるのではないかと考えました。

それぞれのシートをつくるのが目標となつてはいませんが、それでも生活支援体制整備事業の初年度には必要だと思い取り組みました。



中川 CP 井澤 2層 Co

中川地区は、戸建てを中心とした一つの地区連合と地区連合に加入していない大型マンションが多い特徴があります。それぞれで生活環境も異なりますので、こちらからのアプローチも当然変えていく必要があります。現状・課題の整理、今後の目標をより明確にして共有していくために、地区連合と連合未加入自治会に分けてそれぞれで課題・目標シートを作成しアプローチしています。

2

取組の内容

地域アセスメントシートは各種統計、地域の機関・施設、地域活動、キーパーソンなどの基礎的な情報に加えて、**総合相談や要支援の方の状況などを分析するためのシートも設けることで、個別ニーズにも着目してもらい、包括との連携を進めていく**ひとつの流れを作りました。

CP によっては地域分析を行う際にアセスメントシートを活用し、**他部門の職員や3者でキーパーソンや地域内の活動を共有することで、共通認識のもと取組について話し合える**ようになりました。

課題・目標シートは、統一された地域アセスメントを活かしながら3者で検討し支援者が同じ目標を持つことができました。また、それだけでなく**各職種の事業計画の作成にも活かされました。**

また、目標設定のエリアは、地域によっては自治会別や地区連合またはマンション群別で分けるなど、**地区にしばられず地域活動の実態に合ったエリア**で作成しました。

今回の取組の中で要介護認定者数等のデータを町丁別にまとめたことで、同じ地区内でも町によって状況が異なることが明確になり、その地域に必要な社会資源は何か、取組目標を設定する際のエリアをどう分けるべきか、を考えるきっかけとなりました。

体制整備事業は生活支援 Co だけで行う取組ではないことを、CP 内で他の職種に理解してもらえよう、皆が理解できるシートにしようと心がけました。

特に包括との連携が不可欠と考え、このアセスメントなどの取組については、進捗報告だけでなく意見交換をこまめに行いました。

3

今後に向けて

住宅地図を使い総合相談として受け付けた方のマッピングや気になる地域のサロン参加者との分析などを行うことで、個別ニーズを地域支援につなげていくための取組が進んでいます。

相談傾向をデータにおこし「見える化」することで、認知症を伴う相談が多いエリアでの見守りの仕組の構築を目指している地区もあります。また、その相談状況と併せて地域課題の仮説を地域ケア会議の資料に落とし込み、**統計だけでなく実際に困っている人がいることが地域住民へ伝えるための働きかけ**が始まりました。

今後、それぞれの取組をふまえた質的データの分析方法の共有も行っていく予定です。

課題・目標シートは半期ごとに振り返りを行い、2層 Co 同士で共有できる場を設けてお互いの取組の参考にすることだけでなく、1層 Co としても2層 Co と共に困りごとを解決する取組につなげていきたいと考えています。

鶴見区

坂の多いまちでもあきらめない！地域で作る地域のお店

～地域住民や施設と連携した出張販売～

買物が不便なまちで、自宅の駐車場を地域へ開放してもらえたことで「ご近所だから買物に行ける」出張販売が実現しました。



鶴見区社協
内藤 陽介

1

取組のきっかけ

♡ 1層 Co の思い

平成 28 年に東台自治会の会長より『坂が多く、買物に困っている人がたくさんいる。なんとかしたいがどうしたら良いか悩んでいる』という相談が CP にありました。CP から区社協にも同様の相談があり、一緒に検討することになりました。

この相談がくる前に、東台自治会のある寺尾地区、寺尾第二地区を対象に『買物アンケート』を、全世帯を対象に実施していました。（平成 23 年）

地域全体でも困っていることが分かり、何か買物に関する取組が出来ないかと検討はしていましたが、実現はしませんでした。

体制整備事業も始まり、2 層 Co と 1 層 Co で今回の会長の相談に対してどのように進められるかを、過去の経過なども調べて検討しました。

その後、自治会長と実際にどんなことができるかを話し合い、それぞれの考えを共有していききました。

その結果、会長からの呼びかけで、地域で書道教室をしている民生委員の方が駐車場を提供してくれることに！

そして、障害者作業所で行っている野菜販売を出張で行ってくれることになり試験的に実施することが決定しました。

この買物の取組は区内でも前例がないということもあり手探りで進めて行きました。そのため、CP と密に連携を図りお互いの役割分担をしながら地域の想いを大切に進めていくことを意識しました。



寺尾 CP 武藤 2 層 Co

1 層 Co と役割分担や進捗について、その都度確認をするなど連携を取りながら、地域の思いの実現に向け進めました。

CP のエリアにはない障害者作業所と地域が円滑につながったのも、区域で見る 1 層 Co の視点があったからこそ実現できたことだと思います。

2

取組の内容

平成 28 年 7 月に 1 回目の移動販売を計画して、自治会の回覧板・掲示板で周知を行い、当日は 70 名を超える方が参加してくれました。

試行錯誤しながら 1 年が経ち、**今では野菜の販売だけでなく障害者作業所のパン販売も別の日に開催され、野菜販売も利用者より好評だったので月 2 回定期的に開催しています。**また、最初は協力者が、自治会長と民生委員の 2 名だったのが、重いものを配達してくれるボランティアも加わり活動の輪が広がっています。買物の後におしゃべりをしていく人もいて、新たなコミュニティの場にもなっています。

～参加者の声～

- ・近くで新鮮な野菜が買えてとても助かっている。
- ・普段は外出しないので、この野菜の日だけは外出する日にしている。
- ・ここに来ると色々な人とお話が出来るのでうれしい。



障害者作業所の手作りパン！
種類も豊富で飛ぶように売れています



とれたての野菜に目を輝かせる地域の皆さん

買物に困っている方がアンケート結果からも多くいることは分かっていたましたが、初回から多くの方が参加して頂き地域の方もこの取組をスタートして良かったと実感していただけました。

体制整備事業の具体的な取組として早い時期にこの取り組みが実現できたことで、他の CP の 2 層 Co にも体制整備事業のイメージが出来たように感じています。

3

今後に向けて

現在、この自治会の取組から波及して他のエリアでも買物支援を行おうとする自治会が出て来ており、すでに実現しているものもあります。1 層 Co として色々な地域での取組に関わっているからこそ、**その自治会にあった様々なやり方を提案できる**と思っています。区社協の強みである様々な機関とのつながりを活かし、地域の困りごと解決をしていきたいと思います！



神奈川区

「地域のことは俺たちで！！」

～本当の困りごとに届く地区ボランティアセンターの仕組づくり～

地福計画の地区別計画の目標「支え合いの仕組と場をつくる」を目指し、住民アンケートを利用して、地区ボランティアセンターを立ち上げました。

神奈川区社協
伊藤 圭子



1

取組のきっかけ

♡ 1層Coの思い

神奈川区松見地区（1地区社協・1連合・6自治会）では、「第3期地福計画 かながわ支え愛プラン(平成 28～32 年度)」地区別計画の中で、ちょっとした困りごとを地域のボランティアで支えあう「**支えあいの仕組と場をつくる**」という目標がたてられました。

地域の課題（普段の生活の困りごと）を把握するとともに、手伝ってくれる人はいいるのか調べたいと（ちょうどその頃、区の「地域人材マッチングモデル事業」に選定された）、平成 28 年 7 月、全世帯を対象としたアンケート調査を実施。

結果、「**お手伝いできる人**」が「**お願いしたいことがある人**」の数を上回る回答があり、地域のお祭りの手伝いや、**日常のちょっとしたお手伝いなどの地域活動への参加希望のある方がいることが分かりました。**

地区エリアの神之木 CP では、**介護保険では対応できない相談**に対し、CP 圏域をエリアとするボランティアグループでは対応が難しく、区社協では、当該エリアでの地区ボランティアセンターの立ち上げをすすめていたこともあり、「**地域のことは俺たちで、という地区カラーを出すのは、今だ！**」と関わっていくことになりました。

地福計画地区別計画の目標「普段の生活の困りごとを解決しよう」と、体制整備事業が一致。

さらに、モデル事業により全世帯アンケートを経費負担がなく実施。

こんな好機はまずない中でのボラセン立ち上げの検討がはじまります。

地区ボラセン＝庭木の剪定のイメージが定着している中、普段の生活の困りごとへ広げていけたらと考えました。



山根地区社協会長と堀江町内会長

「自分たちのことは自分たちの力で。行政に頼る前に住民の自主的な努力が町を元気にしていると思います。」（堀江町内会長）

「『笑顔で挨拶 松見町 住んでよかった 松見町』の合言葉のもと、おたがいさまで助けあい、ホットできる町を目指しています。」（山根地区社協会長）

2

取組の内容

アンケート結果をもとに、**身近な困りごとを住民の支えあいで解決する仕組「松見地区ボランティアセンター」の立ち上げ**に向けて、10月にボランティアセンター作業部会が発足。区社協・CPからは、他地区ボランティアセンターや包括への相談内容の情報提供、介護保険では解決できないこともあることを伝えながら検討を重ねました。

町内掲示板でアンケート結果(概要版)を報告するとともに、地区ボランティアセンター立ち上げを宣言しました。



総会の様子

専用電話に入った依頼を、自治会毎にいるエリアマネージャーにつなぎコーディネートする仕組をつくりました。

さらに、自治会を通じボランティアを募集したところ、アンケートで地域活動への参加希望とした方の多くが登録されました。

そして、活動紹介リーフレットを全戸配布し・・・

平成29年4月1日、松見地区ボランティアセンターがオープンしました。

オープン当初から、草取り・庭木の剪定などの依頼も多くありますが、**電球交換やゴミ出し、安否確認の依頼や相談**が入っています。

さらにボランティアセンター・CP共催で、**網戸や障子の張替えを学ぶ「修繕学校」**を定期的に開催し、ボランティア登録者だけでなく**新たな活動者を増やしています**。



「普段の生活の困りごと」を解決したいという気持ちと、実際できるのか？という気持ち、意見のせめぎ合い。

相談はまず受けよう。迷ったら、作業部会でその都度検討しよう、と落ち着きました。

まずはやってみること、そして検討し続けていくことが大切と考えています。

3

今後に向けて

「今までどこに相談してよいか分からなかった」という高齢者の声があったそうです。地区の中の相談先の一つとして周知・認識されたことで、**今まで地域で埋もれていたニーズも出てきました**。相談には地区ボランティアセンターでは対応できないこともあり、CPへつなぐことはもちろん、自治会や民生委員へつなぐ場合もあります。さらには、近隣地区ボランティアセンターとケアマネジャーとの顔合わせが計画されています。

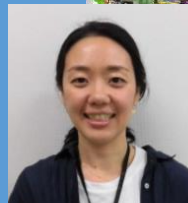
地区ボランティアセンターをきっかけに**普段の生活の困りごとに目を向けることで、新たな見守り活動や居場所の立ち上げ**が検討されています。元々、見守り活動が活発な地区ですが、地区ボランティアセンターの安定化は無論のこと、地区内の活動がそれぞれで完結するのではなく、**個別ニーズと地区活動、関係機関がつながることを目指していきます**。



☆要支援高齢者の夢叶えます！プロジェクト☆

～東永谷 CP とパナソニックエイジフリーデイサービス事業所の協働で
百貨店めぐり～

デイサービス事業所の持つ送迎車を活用し、外出や 1 人での買物が
難しい高齢者の夢を叶えるツアーを開催しました！



港南区社協
藤盛 智子



1

取組のきっかけ

平成 28 年秋にデイサービスを運営している「パナソニックエイジフリー株式会社」より、
「**昼間空いているデイサービスの送迎車を、地域貢献で使えないか**」と区社協に提案
がありました。

同じ頃に、東永谷 CP の包括から「要支援 1・2 の高齢者は、何とか自分で生活
しているけれど、介護保険で出来ることは少なく限られている。**移動手段さえあれば、入
浴や外食など豊かな生活が出来る**」という思いを聞きました。

そこで、CP とパナソニックエイジフリー、区社協との間で、「高齢者の方が自立しながら、
生きがいを持って生活をするために、何か一緒に出来ないか？」と話し合いを重ねました。

まずは、**希望者が多そうな「買物」**に目的を絞り、行き先は、「近くの百貨店」へ決定。
普段なかなか行けない場所にしました。

♡ 1 層 Co の思い

困っていることを
解決する「課題解
決」の視点ではな
く、「楽しいことや
感動すること」にフ
ォーカスして、体制
整備事業を進めた
い！と思い、この
事業を進めてきま
した。



パナソニックエイジフリー
栗田さん

とても楽しく、このことを友達に話したら「自分も行ってみたい」と。普段ボラン
ティアをやったことのない人も、楽しい活動なら参加するきっかけになるのかと思い
ました。（付添ボランティア T さん）

仕事で 20 年位デイサービスをやっているが、今回の利用者の目の輝きは全
く別物。自分もとても楽しい時間だった。若い介護職員にもこの感動を味わっ
てもらうことで、人材の獲得のためにも、有効な取組だと感じました。

（パナソニックエイジフリー 栗田さん）

2

取組の内容

参加者と付添ボランティアさんは CP で募り、ボランティア向けに、事前説明会を行い百貨店の下見に行きました。

当日は、パナソニックエイジフリーのデイサービスの送迎が終わった昼前から、要支援の高齢者 5 名のお宅へ、順番にお迎えに回りました。

その後、予定していた百貨店に向かい、買物を楽しめました。

(参加者 M さん 91 才・女性 の声)

最近足腰が痛くて、10 分歩くのが精一杯・・・普段のお買物は孫に頼んでいたため、品物を手に取る感覚すら忘れていました。

お買物ツアーで目の前に品物を見た時は感動！！胸がいっぱいでありがたいです。参加できたことで、自信もつき、次のお買物までに元気でいようと思うようになりました。

他にも、参加者からは「お買物だけでなく、こうやって行き来ができることが嬉しい」「今度は家に遊びに来てね」と、声が聞かれました。

お買物ツアー 2 ヶ月後・・・CP が、同窓会「夢の続きのお茶会」を開催し、参加者・ボランティアのつながりづくりへと発展しました。

「買物」というシンプルなことも、高齢になると大変で、それを実現出来たことの喜びがこんなに大きいものなのかと、感じました。

参加者の皆さんの目のキラキラとした輝きを見て、この取組が、生活の希望や張り合いになっていたことが手に取るようにわかりました。

希望を持つことは「介護予防になる」と実感しました。



新鮮な野菜に目が輝きます！

3

今後に向けて

CP から、今回のツアーを開催するにあたって高齢者の方へ、この話を持ちかけたところ、普段はケアマネジャーや包括職員に対して「何も困っていない」とおっしゃっている方から、「本当は自分で行きたいと思っていた。とても嬉しい」と声が聞かれました。

高齢になるにつれて諦めることが多い中、心の底にあった「希望」「思い」が聞かれました。これからも地域の皆さん、様々な団体の「できること」をコーディネートして、自立に向けた「思い」の実現を行いたいと思います。



デパートに行くのは数年ぶりの方も



ボランティアさんと一緒なので、安心です。

金沢区

想いをカタチに

助けあいちよいボラ団体の結成に向かって！！

～地区社協、CP、区社協の取組～

金沢シーサイドタウン地区は自治会単位の助けあい活動は活発に展開していますが、助けあい活動のない自治会や自分と同じ自治会の人には困りごとを言いたくないという声が上がっていました。地区社協では長年にわたり、地域内で困りごとを解決する仕組が欲しいと考えていました。



金沢区社協
井上 聖貴

ボランティア講座 入門編

金沢シーサイドタウン地区では地域で活動できるボランティアさんを養成するためにボランティア講座を開催します。地域の方の役に立つことをおたい。仲間を増やしたいなど、これから地域活動をしてみたいとお考えの方のご参加をお待ちしています！

平成29年
日程 2月25日(土)14時～16時30分

会場 富岡並木地区センター 2階会議室

対象 金沢シーサイドタウン地区及び近隣に在住、在職、在学の方

内容

- 「ボランティア活動で何をつくれるか」
- 「充実したボランティア活動のために」
- 「ボランティア活動のしくみ」
- 「ボランティア活動のしくみ」

申込 2月1日(水)～2月22日(木)

1

取組のきっかけ

金沢シーサイドタウン地区は埋め立て地に建てられた集合住宅で構成され、街区ごとに自治会があり(29 自治会)人口約 2.1 万人、9,600 世帯が暮らす非常に大きな地区です。

地区社協では約 10 年前より、**自治会の枠を超えて困りごとの解決ができる地区ボランティアセンターや助けあいグループの組織化**を模索してきました。CP や区社協も相談を受けて実現に動こうとしましたが、担い手の問題や様々な理由で事業の進展が図れない状況が続いていました。そのような中、平成 28 年度に生活支援 Co が区社協と各 CP に配置され、**体制整備事業への取組の中で地域の困りごとを自分たちで解決するというボランティア活動の重要性が高まり**、まずは活動者の獲得を目指して地区社協、エリアの 2 つの CP(富岡東 CP、並木 CP)、区社協の 4 者による共催で**ボランティア講座入門編**を開催することになりました。

ボランティア講座開催までに 4 者で打ち合わせを複数回行い、役割分担や当日の流れ、講師やゲストスピーカーなどを決めていきました。ボランティア講座に参加した方にいきなりボランティア団体を立ち上げましょうというのは参加のハードルが高くなってしまうため、本講座ではボランティア活動をしてみたい方や、地域で仲間をつくりたい人募集という内容で周知していくことに決定しました。周知は CP の広報紙や掲示板へのチラシの掲示、口こみなどで進めていきました。



金沢シーサイドタウン地区社協

三輪事務局長

長く温めてきた事業ですが、なかなか思うような反応がないので、時機が来るのを待っていました。時が経ち、その必要性が増し、生活支援 Co が配置されたことと相まって、時機が来たような気がしています。

縦に長い地区のため分断して考えられてきた経緯がありましたが、区社協、CP2 館の 3 者が一つになって検討して頂いたことと Co の熱意によって、実現に向けて始動しています。地区の中の「元気なうちは何かの役に立ちたい」という気持ちを、色んな人と一緒に具体化していきたいです。

♡ 1 層 Co の思い

集合住宅という特性もあり自治会ごとの活動が活発な地域であるが活動範囲に限界があり、他の自治会への対応まで期待できないところが多い。

自治会活動として助けあいが行われていない方の生活ニーズに対応できる仕組が欲しいと考える地区社協の思いをぜひ形にしたいと考えました。2 層 Co と協力し地区社協含め 4 者で役割分担して講座開催に至ったことで支援機関同士の連携も深まったと思います。

2

取組の内容

当日はライフキャリアデザイン研究室代表の長橋輝明氏を講師に迎え自身がボランティア活動に参加した経緯やボランティアを始めた後の活動に対するやりがい、活動による生活の変化などを含めて講義いただきました。また、地域内ですでに活動されている方2名にも参加者の活動意欲を高めるようなお話をさせていただきました。

当日参加の方もおり、予想より多い15名の参加があり、そのうち11名の方にボランティアとして登録いただきました。

参加者は非常にやる気があり、男性の参加者も15名中6名と予想より多くの参加がありました。**参加者からは「活動できる場を探していたがきっかけがなく、今回思い切って参加して良かった」との声もあり、地域内には潜在的なボランティア活動者がまだまだいることがわかりました。**



受講者のみなさん



講師の長橋氏

当日は予想を超えた人数の参加があり地域人材の可能性が感じられました。ボランティア登録してくれた方にやる気を持続していただけるよう、また、組織化に向けて参加者同士が強くつながってもらえるよう、次の展開として様々なフォローアップの企画を考えていく必要があると思います。最終的にちよいボラ団体として自主化してもらうための道筋を4者で密に連携、検討しながら進めていく必要があります。

3

今後に向けて

参加者にやる気を持続してもらうため、また、ちよいボラ団体を組織化するために参加者のフォローアップを続けています。

- ・第1回参加者交流会：地域内のボランティア活動団体の紹介と参加者同士の交流をはかり、地域内のボランティア団体の会員になられた方が2名います。
- ・第2回参加者交流会：磯子区から広域で活動しているボランティア団体をゲストスピーカーとして招き、活動紹介とボランティア活動のやりがいなどについてお話を伺いました。参加者にどのようなボランティアを希望しているかお話を聞きました。
- ・地域資源紹介ツアー：金沢シーサイドタウン地区の地域資源(CP、地区センター、スポーツセンター、コミュニティーハウス、連合会館など)の見学会を行い、地域内にある施設の紹介をしました。
- ・地区社協事業へのボランティア参加(障害児・者余暇支援事業)
- ・第2回ボランティア講座:まだまだボランティア団体を組織化するには人数が少ないため、2回目のボランティア養成講座を開催し担い手の拡充を図る予定です。講座の中で第1回のボランティア講座参加者からもお話をいただく予定です。



参加者交流会の様子

区社協は CP の応援団！

認知症カフェの立ち上げ支援！

認知症カフェの立ち上げ支援を通じて、地域の皆さんから頼られる生活支援 Co・CP になってほしい！区社協は、後方支援をしました。



緑区社協
岩本 渚



1

取組のきっかけ

♡ 1層 Co の思い

「知人から、認知症の妻と一緒にお茶を飲める場所が欲しいとの話があった。自分たちにとっても、近い将来立ち寄れる場所を作る必要性を感じた」

きっかけは、地区の地福計画の会議の場で、地区社協の事務局長が言われた一言でした。

このT地区は、昭和40年代に大規模団地の開発があり、緑区内でも高齢化率が40%を超える地域です。福祉的支援が必要な方も多く、地区社協は早くから地区ボランティアセンターや常設型のふれあいサロンなど、支えあい・見守りの活動を精力的に行ってきました。ただ、最近では地区社協の担い手も固定化し、活動も少しばかり停滞気味…。そんな中で出てきたのが事務局長のこの一言。そこから、**ふれあいサロンで「認知症カフェ」をやれないか**という声があがりました。

地区社協からの提案を受け、意見交換が行われました。「認知症カフェ」という名称ひとつとっても賛成・反対の意見があり、一般の人も認知症に関する話などを聞くことができた良い、家族が来られない場合はボランティアセンターのボランティアさんが付き添いをして良いのでは？など様々な意見が出ましたが、地域としてこの取組は良いものだからやっこうという概ねの合意は取れました。

この動きに対して、生活支援 Co 兼区社協の地区担当としては、これをきっかけに、さらに地域の見守り・支えあいが広がり、地区社協の活動も活性化できたら…。という思いがあったので、CP と共に応援をしていくことにしました。

区社協の中でも複数の職員で地区を担当している中、生活支援 Co になり、地区担当として関わっているのか、生活支援 Co として関わっているのか、悩む日々が続きましたが、2層 Co が地域の人たちとうまく関わっていけるように、区社協としては一歩後ろから応援をしていこうと考えました。



鴨井 CP 伊藤 2層 Co

配置されて1年目。まだ地域の方の名前を覚えてばかりで何をどう進めていいのかわからない時、いつも相談にのってくれたのが1層 Co でした。私にとって、とても心強いパートナーです。

協議体として
やっこう

地区社協を
活性化したい



区社協

CP

2

取組の内容

今回、区社協 1 層 Co として重視したのは、認知症カフェを作るという過程において、地域の新しい活動を応援しつつ、**CP・2 層 Co は頼りになる存在であることを地域の方に感じてもらう**ということでした。

取組を進めていく中で、地域の皆さんが「あれどうだったっけ？」となった時など、

- ①認知症に対して、地域での理解者や応援者を増やしていくこと（＝自分ごととして捉える）
- ②理解者が認知症カフェの担い手になってもらえるように（＝多くの人の社会参加の機会を作る）
- ③認知症の当事者や家族の方がほっとできる場所となるように（＝地域での見守り）

この3つのことを折々で区社協や CP から触れながら、**方向性を関係者で確認していくことを意図的に行いました。**

とにかくやってみよう！やりながら考えよう！と、認知症に関する講演会（兼認知症サポーター養成講座）を経て、1 回目の認知症カフェを開催。地区社協のみなさんのお知り合いの当事者や家族に声をかけたところ、少人数ながらもなごやかに行われ、「**またこういう場があったら、参加したい**」というご家族の声がありました。個別のニーズを捉えた、

次回へつながる良い初回になりました。



認知症サポーター
養成講座の様子

区社協としては、他の地区や区取組の情報提供を行ったり、地区社協分科会で地区の状況を発表してもらい、**CP の関わりの重要性**を伝えるなど、取組の機運を高めていくことに努めました。

一方で CP は、2 層 Co を窓口として、講演会の講師調整や認知症サポーター養成講座の企画、認知症カフェの当日に総合相談を実施・・・など、包括の職員が協力しながら多くの役割を担ってもらいました。1 回目の認知症カフェが終った時には、地域のひとたちが CP を本当に頼りにしている様子がうかがえました。

いざ、やろうとなったのはいいものの、「やらされ感」や「せかされ感」が苦手な地域のペースもあり、2 層 Co は、働きかけるタイミングなど悩むことも多かったようです。地域のペースを尊重しつつ、どう関わっていけばいいのか、区社協と CP で情報共有を密に行うことを心掛けました。

3

今後に向けて

1 回目が無事に終了し、2 回目の開催についてはまだ決まっていますが、当事者や家族の方のお話を身近に聞いたことで、「**場の必要性**」や「**地域で認知症に対する理解者を増やしていく**」という思いは、地区社協の皆さんの中で改めて、共通認識として持つことができたようです。とはいえ、具体的にこれからどう進めてくか、カフェの内容をどうしていくか、担い手を確保していくための人材育成、広報など、考えることが多いのが現状です。

今後は、CP と地区社協の間にできた信頼関係を区社協として継続して応援しつつ、認知症カフェの発展をめざし、病院や介護保険の事業所などともつながっていけるような働きかけを行っていきたいと考えています。

また、活動の枠組づくりや仕組づくりにとらわれすぎることなく、認知症カフェはじめ、地区ボランティアセンターやふれあいサロンなど地区社協が行う活動が個別の住民ニーズに踏み込んでいけるような支援を行っていきます。

こども食堂は金の卵

～地域のことは地域で解決！「かしおのこども食堂」の取組～

分野別に縦割りでサービスや取組をつくるのではなく、一つの取組を多面的なアプローチにより事業展開を行うことで、「地域は一つである」ことを前提とし、地域の中で効率的で効果的に体制整備事業へとつなげている事例です。

戸塚区社協
山川 英里

ある日のこども食堂

1

取組のきっかけ

♡ 1層Cοの思い

「父子家庭で父親が帰宅する夜中まで子どもが一人でいてはならない」「親からもらったお金でお菓子を買ってご飯代わりにしている」など、区内から制度では対応できない様々な子どもに関する声があがってくる中、柏尾地区でも、「居場所を見つけることができない」「生活に困っている」など同様の問題を抱えている子どもがいるかもしれないと、**他人事ではなく我が事（自分事）として捉え**、住民、民生委員、主任児童委員などが中心となり、検討をはじめました。昔のように、ご近所さんが気軽に「遊んでいきな！」「ご飯食べていく？」と声を掛けあい、**地域ぐるみで子育てに取り組める体制づくりが必要**と感じ、「かしおのこども食堂」は、子どもの視点にたった「子どもたちに、『あったかく』『おうちの雰囲気』を感じてもらいながら安心して過ごせる場所を提供したい」と、地域のボランティアさんが自宅（一軒家）の一部を開放する「**住み開き**」で始めました。

こども食堂の立ち上げにあたっては、子どもの孤食や貧困などに関する情報収集が一番難しく、実際に統計的数値を根拠として地域へ指し示すことはできませんでした。そのため、その必要性を広く地域へ訴えることができずに、地域全体で取り組む活動へと発展するには少し時間を要しました。

子どもと一緒に参加するようになり、子どもだけではなく、親である自分も「つながり」ができました。今では、子どもの成長の写真を送る友人が地域にできました。

自分にも何かできることがあればいつでも言ってください！

参加者の声（男性）



夏祭りでの初出店

「こども食堂」というと、子どもの貧困・孤食対策、居場所づくりだけに焦点があたり、高齢者の生活支援や介護予防の活動の充実を目的とする体制整備事業とはかけ離れていると思われるがちです。しかし、こども食堂という「居場所」は、世代に関係なく互助・共助を生み、高齢者もその一員として出番と役割を持って参加することが期待できました。

ただ、立ち上げの段階で様々な事業を仕掛けると、住民の負担感を増幅させる危険性があるため、慎重に進める必要がありました。

2

取組の内容

平成28年8月の開設以降、月2回開店しているこども食堂への参加者は右肩あがりで増え続け、現在は平均70～80名の子どもや保護者、独居高齢者などが、同じ場所に集い地域のボランティアさんが作った料理や会話を楽しんでいます。現在は、地区連合、地区社協、地区民生委員児童委員協議会、自治会の全面協力のもと、調理や運営は全て地域のボランティアさんが主体となり行っています。この取組は、子どもの居場所、生活困窮、孤食の防止だけではなく、実際の参加者には**認知症の人や介護者もあり、認知症カフェや介護者の集いの機能も発揮**しています。また、**独居高齢者が近所の気になる子を迎えに行き一緒に参加したり、現場で子どもの見守りを行うなど、自然と高齢者の役割が創出され、外出機会や交流に加え社会参加からの介護予防**にもつながっています。担い手として、これまで地域活動に参加していなかった若い子育て世代の人も多数参加しており、**高齢者を支える上でもこれから必要となる多世代循環型社会のきっかけづくり**にもなっています。

さらに特出すべきは、この活動を地元住民が積極的に支援をはじめたことです。こども食堂がある自治会では、自治会長や役員が中心となり「かしおのこども食堂支援プロジェクト」を立ち上げ、趣旨に賛同する班長とともに地域住民のお宅を一軒一軒訪問し、説明をしながら活動資金となる募金活動を行っています。また、こども食堂を地域へ広く周知すること、活動の運営資金確保のための場の提供として、自治会の夏祭りでの出店に協力するなど、地域全体で活動を支援しています。住民主体で行うこども食堂は、**困っている一人ひとりの問題を解決するだけではなく、地域の問題は地域で解決するという住民意識と地域力・住民力の向上にも絶大な成果をあげています。**

3

今後に向けて

高齢者を地域全体で支える仕組みをつくるためには、住民主体で行うたくさんの取組や活動が必要になります。分野別に縦割りでサービスや取組をつくるのではなく、**地域は一つであることを前提**とした効率的かつ効果的な活動を創出するために、住民にやらされ感や負担感を感じさせない「きっかけづくり」や「事業展開」を専門職がコーディネートしていく必要があります。

そして、住民主体の「こども食堂」から、**住民主体の「地域の支えあい活動」に発展する取組を区域全体へ広げていく**ためには、一つの活動だけが潤沢になる財源の確保ではなく、**多様な機関に参画**してもらい多くの活動を創出するための「基金」の設立なども検討していく必要があると考えています。

専門職としていかに地域活動を支援していくのか、この事例での関わり方を検証し、多様な機関を巻き込んだ次の活動を創出していきます。

生活支援Coが立ち上げから関わり、今後の展開を見据えた上で、常に地域住民へ事業の方向性と取組の意識付けを行い、新たな展開があった場合にはその評価を随時伝えてきました。こども食堂は世代に関係なく支援や居場所を必要とする住民が多く集まり、支援する側・される側に区別されることなく、参加者同士がふれ合う中で一人ひとりの潜在的な問題に住民自らが気づき、ゆるやかなつながりや支えあいの中で解決する場となりました。さらに、地域住民が自発的に活動の支援を始める等、一つの事業を発点に地域全体の支えあい活動へと展開することに成功、体制整備事業の推進に大きな存在となっています。



絶大な効果を発揮するこども食堂

栄区

③あ ④かたちにしよう ⑤んづくり

～ちょこっとボランティア連絡会からつながる～

1 層 Co・2 層 Co が連携し、区域、地区域、それぞれの強みを活かして、ちょこっとボランティア連絡会を実施。区の規模が大きいからこそ、一体的に取り組めた活動を紹介します。



栄区社協
倉田 真吾



ちょこっとボランティア連絡会

1

取組のきっかけ

♡ 1 層 Co の思い

平成 27 年度に豊田 CP から、「CP エリアでは、生活支援ボランティア団体が少なく連絡会を実施しても情報交換や悩み事の解決が難しい」との相談がありました。

体制整備事業が始まる背景もあり、今後、**地域で活動している団体同士によるネットワークづくり**が必要であると考え、平成 27 年度末に「**ちょこっとボランティア連絡会**」を立ち上げました。

平成 28 年度、**2 層 Co がアセスメントを進める中で、各地区で身近な地域での支えあいの必要性（ちょこボラ）**が見えてきました。1 層 Co と 2 層 Co が一緒に各地区へ説明や研修にも出向く中で、**団体間の横のつながりの必要性**を感じて、生活支援 Co 連絡会として共催することになりました。

区社協が持っている対象となる団体の情報をもとに、**2 層 Co から各地区の活動団体や関心のある方に直接声をかけて、趣旨説明をすることで、多くの方に参加してもらうことができました。**さらに新規で立ち上げ予定の団体の情報も追加してもらうなど、**2 層 Co が関わることで、地域の細かな情報を入手することができました。**

2 層 Co には事前の調整のほか、資料作成、当日の進行など主体的に関わりを持ってもらいました。

栄区は、高齢化率は高いけれど、要介護認定率が低く、元気な高齢者が多い区です。それを裏付けるように、サロンや健康体操などの地域活動がとても活発です。その一方で、ちょっとした困りごとに対応できる生活支援の団体は少なく、地域の方の関心も高い事案でした。この課題に 1 層 Co と 2 層 Co が一緒に取り組むことで、元気な栄区をこれからも維持していきたいと思いました。



豊田 CP 矢濱 2 層 Co

悩み事を出し合うだけで終わってしまいがちだった豊田での連絡会。活動縮小傾向の団体もあり、このままでは……と思い、1 層 Co に相談しました。区域連絡会開催により、様々な団体から運営や担い手などの課題解決のヒントを得ることができ、継続のための取組を検討した団体もあります。また関心のある方にも呼びかけを行ったことで、新たな活動が検討されています。2 層 Co の思いを 1 層 Co が受け止め、実現につなげてくれました。

2

取組の内容

平成 28 年度は 1 月に実施し、22 団体 28 名が参加しました。

また、出席団体に事前アンケートを取り、各団体の活動内容の詳細を聞くことができました。

また、連絡会で共有したいテーマを聞いて、「活動内容」「担い手」などテーマごとのグループで意見交換を行ないました。



各団体の活動エリアを地図に落とすことで活動のないエリアを発見！

連絡会を実施したことで団体間の横のつながりができ、さらにこれから活動を検討している団体も参加したことで、具体的な活動イメージを持ってもらうことができ、CP によるその後のフォローにつながりました。

また、「担い手不足」という共通課題に対して区域で講座を開催し、その後各地区へ広げていくなどの区域と地区の役割分担についても話すことができました。

これを機会に平成 29 年 6、7 月に区社協と生活支援 Co 連絡会の共催で 3 回連続の「担い手発掘講座」を実施しました。主に 60 代を対象に募集し地域デビューを応援する内容にしたところ、27 名の参加がありました。参加者、2 層 Co、ボランティア活動をしている地域の方を交えての意見交換の時間をつくり、参加者から「今度は CP に行ってみよう!」との声があるなど、今後につながるきっかけを作ることができました。



地元企業に講師として協力してもらいました

2 層 Co が具体的に何から取り組んでいけばいいか悩んでいるなかで全 2 層 Co が協力・連携して、ちよこっとボランティア連絡会や担い手発掘講座を実施しました。経験したことを今後の活動に活かしてもらえると嬉しいです。区域の課題への取組を進めるに当たり、各地区からの課題を吸い上げ、共通課題へ取り組む際には一緒に悩んで考えていきたいです。



2 層 Co 全員で話し合いながら担い手発掘講座の企画・運営をしました

3

今後に向けて

「ちよこっとボランティア連絡会」を終えて、2 層 Co が活動者の声を直接聞くことで地域課題に気付くきっかけになり、団体とともに解決に向けた取組を進めていける関係づくりができました。また、団体にとっても生活支援 Co と各団体の特徴、課題、悩みを共有できたことで、身近な相談先として CP や社協とつながりました。

講座運営のノウハウを持っていない、経験の少ない 2 層 Co が多かったため、「担い手発掘講座」をとおして、企画、講師調整、当日の進行などを経験することができましたが、課題は多くありました。他の CP のやり方も学ぶ機会にもなり、経験したことをプラスに今後各 CP で同様の取組をする際に活かされることと思います。

少しずつ団地内の高齢化が進んでいく中で、住民の課題を集約し支援する、「MSS（マークサポート支えあい）」の取組についての事例を紹介します。



瀬谷区社協
丸山 敦子



MSS マルシェの様子

1

取組のきっかけ

♡ 1層C oの思い

団地の周辺には、歩いて買物ができるスーパーやホームセンター、病院などが無く近所の付き合いのある方同士の間で送迎などの助け合いを行っていました。しかし団地内の高齢化が進む中で、最近一人暮らしになったり、体が不自由になったり、高齢によって車の運転が出来なくなるなどの理由で外出に支障を来し、自宅に閉じこもりになっている方が多く見られるようになりました。

そこで、「**住民ボランティアで買物支援をすることは出来ないか**」と区社協に相談に來られたのをきっかけに、住民の有志 6 名で生活支援活動を行う「MSS(マークサポート支えあい、以下 MSS)」設立に向けた検討が始まりました。

活動内容の検討にあたっては、**全 735 世帯に住民アンケートを実施し、どんな支援が必要かを調査しました。**その中で「外出時の送迎」についての要望が一番多くありましたが、利用する車両や事故時の保険、利用料金の問題など、住民ボランティアで行うには課題が多く、生活支援のメニューとしては「**買物代行**」という支援内容で行うことになりました。

また、閉じこもりがちの方への支援については、団地の中で買物ができる機会を作ることや、近隣の病院の送迎バスが団地内を経由できないか検討していくことになりました。

ボランティアの参加については、68 名の方が活動の意欲があると回答いただき、平成 29 年 4 月に MSS 設立総会を実施し活動がスタートしました。

住民の一番の要望であった「買物支援」「医療機関への送迎」を自家用車送迎以外の方法で支援できないかを模索する中で、できないと諦めるのではなく『行けないなら来てもらおう』という地域の方の発想から、情報収集を行い、他の活動事例を調べていく中で、外出の支援だけでない生活のさまざまな支援の検討に繋がっていきました。地域のパワーは無限だと感じています。



MSS 及川会長

マークスプリングスも入居開始から早 14 年が経過し、高齢化は年々増加しています。2025 年にピークを迎えるであろう超高齢社会問題は、やはり「自分で出来る事は自分たちで」の精神で自助、共助に努めなければならないと思います。

私たち MSS は、出来ないことはサポートし、出来ることはアドバイスにより自身で体を使い、手足を動かし自身の細胞を甦らせて頂きたいと思っています。

MSS の活動によって、住民同士の交流が深まり、お互い様で支え合える“マークの友の輪”が広がっていくことを目指していきます。

2

取組の内容

■ MSS による生活支援

原則、70 歳以上の高齢者や障害のある方々、生活の中のちょっとした困りごとの解決を、出来る範囲で支援する活動を行っています。

【支援メニュー】家庭内作業、家庭外作業、ゴミ出し、暮らしの相談、買物の相談

■ MSS マルシェ&カフェの開催

【開催日】毎週月曜日 8 時半～11 時

買い物をして運ぶのに大変な、野菜とお米を団地内で購入できるよう、近隣農家の協力によりマルシェを開催しています。

また、マルシェの一角に、買い物に来てくれた方や住民が自由におしゃべりやお茶ができるカフェスペース(コーヒー無料)を用意し、住民の交流の場を開催しています。



■ 福祉施設の送迎車を使用した買物ツアー実施についての検討

団地内にある、福祉施設のデイサービスの車両(8 人乗り)を利用して、MSS の利用会員を対象に、近隣のスーパーやホームセンターなどに“買物ツアー”を企画中です。買物先や実施の頻度など、利用者の要望を聞き取りし実施に向けて検討しています。

■ 病院の無料巡回送迎車の団地内循環ルートについての検討

近隣の病院の無料巡回送迎車が団地内を経由して運行できるよう病院と協議し、現在、巡回ルートと送迎時間について検討中です。

区社協としても MSS

設立の検討から携わり、情報提供や文書作成などを支援してきましたが、活動が始まって感じていることは、地域を動かしていくのは地域の方々の想いの強さなんだということです。

さらに 68 名のボランティアの方々のご意見やアイデアをいただくことで色々な角度から MSS の活動が広がっています。私たちはその活動を見守り、必要な時に支援できる関係を続けていきたいと思っています。



3

今後に向けて

生活支援活動について住民に周知していくほか、住民からの支援内容のヒアリングを行い、なるべく要望に沿った活動ができるよう検討していきます。

また、**住民同士の交流を図れるよう**、MSS 利用登録者、ボランティア登録者の交流会を行っていくほか、ボランティアの持っている特技を活かした講座の開催を検討します。

MSS は、支援する側、される側のボランティア活動ではなく、**住民が自分らしさを発揮しお互いさまの助けあいができる活動の充実**を目指していきます。



中 区

区域協議体を活用した 家事支援に関するアセスメント

今後ニーズが高まると予想される家事支援について、区域の協議体を開催。サービス利用や相談について現状を把握し、課題を検討する機会となりました。

また、ここでの話し合いがきっかけとなり、具体的な取組の検討を始めた地区もあります。



中区社協
尾崎 直美



1

取組のきっかけ

「中区には、生活支援（家事支援）サービスを行う地域団体が少ない」

2層 Co 6人と圏域ごとの地域活動を調査した結果、こうした特徴（課題）が見えてきました。

一方で、地域の方からは「近くのお店がなくなり高齢者が買物に困っている」「ゴミ出しが大変」などの話が出されていましたが、これらが区全体としての課題なのか圏域に偏りがある困りごとなのか、十分に把握できていないことも分かってきました。

そこで、区と協議の上「まずは圏域にとらわれず、区全体の課題として現状を知ろう」と、区域の協議体のテーマとして「家事支援」を取り上げることとしました。

協議体には、地域活動団体や事業所、シルバー人材センター、CP など様々な立場の方にご参加いただき、テーマに沿った検討・情報共有を進めています。

※中区では、区レベル地域ケア会議に3つの部会を設置しており、その一つである「地域資源創出部会」を区域の協議体として位置付けています。

♡ 1層 Co の思い

ヘルパー事業所やシルバー人材センター等、社会資源として把握していただけただけで、この機会にサービス提供の状況や利用者の実態等について共有できればと考えました。また、相談内容等を共有することで各 CP の2層 Co と包括職員が連携するきっかけにもなればとの思いもありました。



家事支援に関わる団体や事業所、相談機関が集まりました

【参加者の声】

- ・自費サービスについての情報を知ることができ、参考になった。自分の地域で情報提供に使えるようなツール作成について検討したい。
- ・自分でSOSを発信できない人に、情報を伝えられるツールがあればと感じた。
- ・地域で活動している方々の話が参考になった。また、改めて相談ケースを見返し、現状では介護保険サービスで対応する割合がとても高いことが分かった。
- ・高齢者自身が活躍する場の必要性を感じた。事務所の空き部屋を活用して、なにか取り組みたい。

2

取組の内容

平成 29 年 2 月と 6 月に協議体（地域資源創出部会）を実施しました。

- メンバー ・シルバー人材センター ・家事支援を実施している NPO 法人
・ヘルパー事業所 ・ケアマネ事業所 ・CP
・民生委員 ・自治会長 ・友愛活動員
- 内容 ①家事支援の事業所紹介
②区内でのサービス提供の状況や、家事支援に関する相談の内容や本人状況等について共有
③課題について検討 など

そこで見えた中区の現状は、

- ・有償サービスの利用で解決しているケース
- ・身近な人との助けあいで解決しているケース
- ・それをきっかけに介護保険を申請し解決しているケース

が多いものの、

- ・有償サービスは費用負担が難しく我慢しているケース
- ・周囲と繋がりがなくニーズすら把握できないケース

への対応が課題であると確認できました。

協議体メンバーに入ってもらうことで、これまであまり関わりがなかった NPO 法人とつながることができました。

また、2 回目の協議体に向けて、各 CP で受けた家事支援に関する相談内容やその対応方法等について、生活支援 Co が包括職員へヒアリングを実施し、個別の相談ケースを知る機会となりました。

3

今後に向けて

区域協議体での検討結果を踏まえ、今度は**各圏域へのアプローチ**を進めていきます。

具体的には、各地区の民生委員の皆さんに区域協議体の結果をお伝えするとともに、地域の現状についてヒアリングを行う予定です。（2 層 Co が中心となって実施予定）

これらを通して、区域・各圏域での家事支援に関するアセスメントをさらに進め、必要な資源創出等に結びつけたいと考えています。また、協議体の中で出された「**誰とも繋がりがなく、困っているかどうか分からない人**」をどのように減らしていくのか、**見守り活動の必要性**などについても検討する予定です。

なお、この協議体がきっかけとなり家事支援に関する助けあいの仕組づくりについて検討を始めた地区もあることから、CP の 2 層 Co と支援していきます。

南区

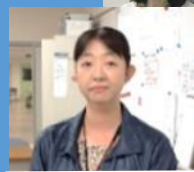
みんなで取り組む

“ちょこっとボランティア”のつながりづくり

ボランティア団体、CP、特養包括、区、区社協が一緒になって取り組み、南区で初めて生活支援のボランティア同士が集う場をつくるきっかけとなった事例です。



南区の生活支援 Co の皆さん



南区社協
野々村 まなみ

1

取組のきっかけ

南区では、第2期南区地福計画推進の頃より、「ちょこっとボランティアの団体同士の悩みを共有するために、つながる場があるといいね」という声が多くあり、**長い間、生活支援ボランティア同士のネットワーク化が求められていました。**

一方で、平成28年度より配置された**生活支援 Co**については、**他の職種と**
いかに連携するかが区域の課題になっていました。

そこで、この二つの課題を解決するために、生活支援ボランティアのつながりをつくる取組を団体と関係機関が一緒になって進めることにしました。

生活支援 Co が新たに配置され、地域支援に関わる専門職が増えたことにより、手探りながらも、ようやく新たな一歩をみんなで踏み出すことができました。

特に生活支援 Co は、1層 Co も2層 Co も不安を抱えながら一人で業務を進めることが多いため、この取組をきっかけにして、**自分たちの役割を改めて考えるきっかけ**にもなりました。

♡ 1層 Co の思い

1層 Co も2層 Co も成果を求められる状況の中でも、地域支援には時間がかかることはわかっていました。

だからこそ、目立つような新しい取組ではなく、これまで課題になっていたことを少しずつ解決していくことが南区らしいと思いました。

また、様々な立場の人が一緒に同じ方向を向いて取り組めたら、もっと素晴らしいなと感じていました。



「ちょこっとボランティア交流会」
運営委員の皆さん

- ボランティア同士のつながりがもっと強くなっていくといいですね。
- ボランティアの方々の活動が長く続けられるように、これからもみんなで、立場は違って協力していきたいです。
- 運営委員会は、毎回和気あいあいと話し合っています。活発な意見がたくさん飛び出します。
- 自分も日々、試行錯誤しながら頑張っていきたいと思います！

2

取組の内容

【平成 28 年度】

- 「ちょこっとボランティアネットワーク(仮称)立ち上げ準備会」を開催し（参加者 26 名）、関係機関（CP、特養包括、区域の主な団体、活動を始めたばかりの団体、区、区社協）が集まり、つながりの場づくりについて検討しました。
- その結果、「ボランティア同士の交流会を立ち上げよう！」という結論になりました。

【平成 29 年度】

- CP 等の地域交流 Co と生活支援 Co、団体の中から運営委員をそれぞれ選出し、区と区社協も含めて**運営委員会を定期的に開催**することになりました。
- 「第 1 回ちょこっとボランティア交流会」を 6 月に開催し（参加者 55 名）、13 団体が活動内容を発表しました。また、日頃から「困っている事」や「解決するために工夫している事」を話し合いました。
- 参加者からは、「他の団体の話が聞けてとても参考になった」、「今後も参加したい」という意見が多くありました。

立場を超えて取組を進めることは、簡単なことではありません。それでも、地域交流 Co と生活支援 Co を中心に進めていく中で、みんなの目的は同じであることがわかりました。

新しい活動団体が区域で多く立ち上がるのはまだ先かもしれませんが、地域支援の専門職が今後も一緒に、「誰もが暮らしやすい南区」をつくっていければと思います。



ちょこっとボランティア交流会

☆ 意見交換で出た主な課題

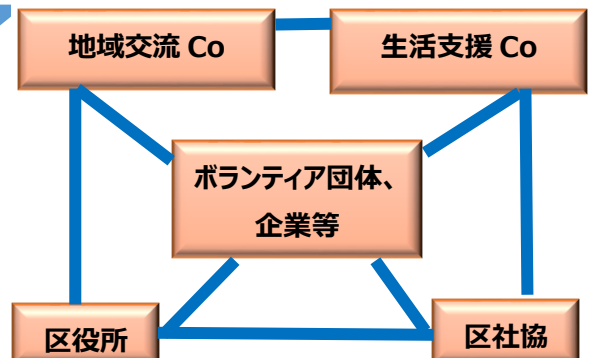
- ・男性や若い世代の担い手が少ない。
- ・担い手のモチベーションを維持して活動を継続してもらえることが大事。
- ・草むしりで虫に襲われる危険がある。また、ゴミの処分に困ることがある。

3

今後に向けて

「ちょこっとボランティア交流会」は今後も定期的に開催し、活動する多くのボランティア同士がつながり、「人、物、ノウハウ」を**区域で共有できる**ことを目指していきます。

区域で共有することで、自分たちでは乗り越えられない課題についてはみんなで解決し、活動が少しでも長く続けられることを期待しています。また、新たな「ちょこっとボランティア」団体が今後も増えていくことを願っています。



『支えあいの仕組づくり勉強会』で取組加速！

～生活支援ボランティア活動の立ち上げのい・ろ・は～

生活支援ボランティア活動の立ち上げに関心をもつ地域団体が複数あったため、区域で「支えあいの仕組づくり勉強会」を開催。

既に取り組んでいる他地区の発表を、地域住民と2層Coが一緒に聞いたことで地区毎の話し合いが始まり、3地区で新たな活動が立ち上がっています。



保土ケ谷区社協
稲田 恵子



1

取組のきっかけ



1層Coの思い

保土ケ谷区では地福計画（愛称：ほとなまちづくり）の地区別計画の推進の中で、①住民同士の支えあいのボランティア活動、②誰でも立ち寄れる居場所づくりの取組を検討している地区が複数ありました。

また、これとは別に、老人会としてこうした取組を地域で実施したいという思いを持った会長さんからCPの2層Coに「活動立ち上げのためのマニュアルはないか？」との相談が入っているということも耳にしました。

「CPの2層Coとともに、こうした地域の方々の想いを何とか形にするお手伝いをしたい！」と思ったのが取組のきっかけです。

でも、活動立ち上げのマニュアルはないし、そもそもマニュアルどおりに立ち上げるなんて、不可能なのが地域の活動です。活動の拠点となる場所の有無や担い手の状況、活動資金など地域の状況は千差万別です。丁寧に話し合っ、その地域に合う活動を地域住民自らが作り上げていくしかないのです。

そこで、既に取り組んでいる地域団体から、立ち上げに向けた苦労話や工夫点を聞き、それを参考にして、それぞれの地域に合う取組を考えてもらうきっかけにしようと思い、勉強会という形をとることにしました。

勉強会の冒頭に支援を必要としている方の状況をイメージしてもらう時間を設けました。

ADLの低下に伴い生活のちょっとした困りごとを一人で解決できなくなるだけでなく、それまで参加できていた地域の行事やサロンにも徐々に参加しにくくなり、地域とのつながりが希薄になっていきがちです。

支えあいのボランティア活動は、生活の支援であると同時に地域住民とのつながりを途絶えさせない、孤立を生まないための取組でもあるのです。



3地区の発表を聞いた後、疑問点をグループで整理

【参加者の感想】

- ・3地区でボランティアの形態が違ったので、比較して聞くことができました。
- ・今後、活動するにあたり、手探りでしたが何とか出来そうに思いました。
- ・日頃、男性・女性を問わず、ボランティアの必要性を感じていますが、募ったことがないので、その必要性を感じました。
- ・地域の特性により取組方針が異なり、自分の組織の方針により、ボランティアの内容が変わってくることが見えてきました。

2

取組の内容

平成 28 年 11 月に「**支えあいの仕組づくり勉強会**」を開催。

地域から 10 団体 23 名（地区社協や自治会、老人会）、関係者 20 名（2 層 Co や地域交流 Co、区役所職員など）の参加がありました。

既に生活支援ボランティア活動を実施している 3 団体から、**実施のきっかけや想い、運営の母体や担い手、コーディネート の仕組、ニーズや利用状況、実施までの準備や手順、経費面、成果と課題などについて報告**してもらった後、参加者がそれぞれ更に深く話を聞きたい団体のところに集まり、個別に質疑や意見交換を行いました。

地域の方と各 CP の 2 層 Co が一緒に参加していたため、この勉強会をきっかけとして、**7 地区で具体的な取組に向けた相談がスタート、そのうち 3 地区で新たな活動が立ち上がりました。**



たすけあいグループひだまりの発表



3グループに分かれて具体的な質疑応答

大規模団地と戸建住宅街とでは、住民同士のつながりの状況や地域のニーズなどが異なります。

そこで、発表してもらった団体を選ぶ際、団地や戸建住宅など地域状況が異なり、特徴ある取組をしている団体を選びました。

参加者もそれぞれ自分の地域の状況と似ている団体のところへ集まり、より具体的な質疑や意見交換が行われていました。

3

今後に向けて

平成 28 年度は「生活支援ボランティア活動」の立ち上げをテーマに勉強会を実施しましたが、**平成 29 年度は「居場所づくり」をテーマとした勉強会を実施する予定**にしています。

また、「活動立ち上げのマニュアルが欲しい」という老人会の会長の想いを受け止め、マニュアルではありませんが、**活動を立ち上げる際の検討のポイントをまとめた「支えあい活動立ち上げのい・ろ・は」という小冊子を作成しました。**

この冊子には、①生活支援ボランティア活動、②居場所づくりの活動立ち上げに向けた検討のポイントと共に、**活動を継続させるためのポイント**なども掲載しています。

参考資料として配布し、CP の 2 層 Co と共に、地域の方々と支えあい活動の立ち上げに向けて検討していく予定です。



認知症サポーター活躍の仕組づくり！

「いそごオレンジボランティア」

地域に眠っている「認知症サポーター養成講座受講者」を活動に繋げよう！CPの多職種、区、区社協の3者が連携して“高齢者が安心して暮らせる地域づくり”の一步を踏み出しました。

磯子区社協
井上 佳代子

～地域の力で支えよう～
**いそごオレンジ
ボランティア**
になりませんか？

1

取組のきっかけ

♡ 1層Coの思い

平成 27 年度末、区（高齢・障害支援課）と区社協で打ち合わせをしていた時に「**認知症サポーター養成講座受講者（以下、受講者）数が多いのに、活動に繋がらないのはもったいない！**」という意見が双方から出ました。

当時の区レベル地域ケア会議の検討課題として『認知症支援』が挙げられており、CP 包括職員からは「認知症サポーター養成講座を受けて終わりにしてしまうのは残念。その先につながるものがあるといい」という声や、「介護保険では対応できない通院付添いや、買物など一緒に行ってもらえたら…」といった、困りごと、個別ニーズを聞く機会が増えていました。また、地域では「担い手がいない」という声をよく聞きます。

そこで、「**受講者を活動につなげる仕組をつくろう**」と平成 28 年 10 月より「いそごオレンジボランティア」の登録を開始しました。この取組に、CP との連携は欠かせません。

登録開始にあたり、区・区社協で活動内容や活動先等の構想（案）を作り、区・区社協（ボランティアセンター担当または 1 層 Co）が区内 CP を訪問。現状のニーズやボランティアコーディネートの状況、ボランティア登録の方法などをヒアリングし、意見を伺いながら、検討を重ねました。継続的な取組ができるように、CP・区・区社協向けに「いそごオレンジボランティア」の手引きを作成し、共通認識をもって取り組んでいます。

「いそごオレンジボランティア」を活動に繋げるためには、『ニーズ把握』、『ボランティアコーディネート』、『活動の場』の 3 つの要素が必要。そのため、CP の 5 職種連携が不可欠です。
「高齢者の社会参加、生活支援の側面からもこの取組は体制整備事業に繋がる」と当初から目論み、2 層 Co には活動の場の開拓を依頼しました。



滝頭 CP 林 2 層 Co

活動先の開拓は、日頃の地域連携や隣接 CP との協働などにより、グループホームや小規模多機能型居宅介護での見守りや将棋のお相手として繋がることができました。また、CP の認知症カフェでも、認知症を理解した応援者であるオレンジボランティアが活動していることで、介護者の方にも安心してご参加いただいています。

2

取組の内容

「いそごオレンジボランティア」とは、認知症サポーター養成講座受講者で、高齢者（若年性認知症を含む）を支援するボランティア登録した人のことをいいます。

ボランティア登録は CP・区社協どちらでもでき、登録時には活動先一覧表をお渡しするので、すぐに活動につながることができます。活動エリアを限定することなく、近隣区の CP や区社協と連携をとりながら、ボランティアコーディネートをしています。磯子区では認知症カフェが増えてきており、「いそごオレンジボランティア」の活動先の一つとしても期待されています。

また、認知症サポーター養成講座より深い知識を身につけること、「いそごオレンジボランティア」に関心をもってもらうため、区域および各地区で「**認知症サポーターステップアップ講座**」を開催しています。1 層 Co としては、区ボランティアセンターでのニーズやコーディネート状況の把握。CP の 2 層 Co は活動場所の開拓、地域交流 Co はボランティアコーディネート、包括職員は個別支援からのニーズ把握といったように**多職種が連携して取り組んでいます**。



昨年度に実施した、区域の「認知症サポーターステップアップ講座」の様子

1 層 Co とボランティアセンター担当職員が協働で仕組を構築できたことは、区社協内連携という観点でも有意義でした。CP には各種連絡会で協議や説明をしました。登録開始前には再度、区と区社協で区内 CP を訪問し、丁寧に説明すると同時に、この取組に対する“本気度”を感じていただきました。

3

今後に向けて

「いそごオレンジボランティア」の登録者数は **88 名**（平成 29 年 7 月末現在）。登録者数を増やすことだけでなく、**どのような活動に繋がっているか**がポイントです。CP、区社協での登録者数を毎月、区社協でとりまとめていますが、平成 29 年度からは**活動状況も可視化**できるようにコーディネート状況についても共有しています。また、「いそごオレンジボランティア」の意識向上や証となることを目的に、活動時に使えるバッジとネックストラップを作成します。



活動の場として新規に開拓した施設で活動する「いそごオレンジボランティア」

現状の活動先は施設やサロンがメインですが、地域で暮らす高齢者の生活支援、ちょっとした困りごとなどの個別ニーズもあります。**今後、オレンジボランティアが体制整備事業の一環として個別ニーズにも対応できるよう、CP とともに考えていきます。**

施設入居者と散歩中。
活動によって、社会参加・介護予防にも繋がっています！



青葉区

これからも 2 層 Co と共に！

青葉区は旭区と並び、CP（包括）が市内最多の 12 館。それぞれで取組課題や内容、進め方も様々ですが、様々な場面で力を発揮してもらえるよう取組を進めています。



青葉区社協
関沢 千早



傾聴ボランティア講座の様子

1

取組のきっかけ

青葉区は CP（包括）の数も多く、また、昨年度は 2 層 Co の配置状況も様々でした。

そこで、既に活動している 2 層 Co が更に色々な場面で力を発揮してもらえるよう、応援することが 4 月から担当した私の最初の仕事であると考えました。

在宅で生活しながらも、外出が難しく、他者との交流機会の少ない高齢者が多くいるという課題を日頃感じていました。

そこで、区社協として傾聴ボランティア養成に取り組みたいと 2 層 Co の皆さんに話したところ、同じようにニーズの高まりを感じていたと、講座の組み立てや参加者への声掛けにも積極的にご協力いただきました。

初回講座のニーズ説明の際、2 層 Co から生活課題のニーズ調査の結果を発表していただいたり、主任ケアマネジャーから個別事例を出しながら在宅傾聴ボランティアの質的な必要性を説明していただきました。また、講座終了後、希望者を対象とした茶話会での実習の際にも、2 層 Co の皆さんにご協力いただき、受講者とボランティア団体をつなぐ架け橋となっていました。

♡ 1 層 Co の思い

ボランティアセンターへ寄せられる相談の他、包括カンファの場面や民生委員さんからのつぶやきから、孤立している在宅高齢者が多くいることを感じていました。ボランティアを養成し、その後の活動に参加するためのフォローを 2 層 Co と取り組めたことで活動のイメージを共有することができました。

ボランティアとして定着したといううれしい報告もありました。団体化に向けていくつも課題がありますが、2 層 Co と共に、地域で活躍する団体となるよう働きかけていきたいです。



大場 CP 田中 2 層 Co

今回、エリア内で活動している 2 つのサロンへ 3 名の実習生を調整しました。サロンの名前にもなっている人と人、また困りごとと地域との【お・むすび】がとても大切であり、私たち生活支援 Co はこういった“むすぶ”活動を続けて“広げて”いくことがとても大切ということをこの講座を通して再認識することができました。また同時に包括からも在宅への傾聴ボランティアの必要性を日々伝え聞いています。今後の活動の先に在宅への傾聴ボランティア活動、そして多くの地域で活動されているサロン活動に参加してもらえる案内へとつながるキッカケになるよう 2 層 Co として支援していきたいと思っています。

2

取組の内容

他にも様々な場面で2層Coの活動の力となるよう取り組んでいます。

～地域での生活を支えるために～

区の高齢・障害支援課と区社協が共同事務局となり成年後見サポートネットを実施しています。市民後見人バンク登録者をはじめ、専門職団体や包括関係者のネットワーク構築を目的とした事業です。

今年7月に開催した分科会では、「地域みんなで支えあう福祉活動」をテーマに2層Coから地域の特徴や地域活動について、事例を交えながら話しいただきました。バンク登録者は、後見人という立場も踏まえながら、地域での生活を支えるためにどうあるべきか、皆で考えることができました。



成年後見サポートネット分科会

～2層Coの活動の基礎づくりのために～

昨年度から有志が集まり、月1回程度勉強会を行っています。

日頃感じている些細な疑問や、実験的な試みを共有しています。それぞれの経験の中から、意見を出し合い、新しいアイデアや取組が生まれています。

2層Coの人脈を活かした民間の有償サービス事業所のヒアリングや、相談票の様式変更と傾向分析など、取組の事例共有が行われています。このような取組を通して、地域課題の抽出や住民活動のきっかけづくりにつなげていきたいです。

横のつながりができ、何かあった時には相談し合える関係づくりになっているほか、横の関係をつくることで、改めて担当エリアの特性を知ることができる機会となっています。

市民後見人と2層Coは、互いの専門性は異なりながらも、地域での生活を支えるという視点は共通しています。今後はさらに、ケアマネジャーへの啓発など、展開が考えられます。

2層Coからは「今は2層Coが活動していく基礎づくりの時期だと感じています。みんなで前を向いて体制整備事業に取り組めるよう、生活支援Co同士が何でも話し合える場が必要だと思いました。経験は様々ですが、情報交換会への参加メンバーが増える度に、会の幅や安定感が増していると感じています。」という声が聞かれています。

3

今後に向けて

2層Coの取組がより一層進むよう、その環境を整えていくことが重要であると考えています。

2層Coだけでなく、CPの他職種の方や区の包括ケア担当や事業企画担当の皆さんとも連携してきました。その結果、横のつながりを強められたように感じています。今後も住民の支えあいが進むよう、CP、区、区社協が丸となって地域支援に取り組める下地づくりを行いたいです。また、地域の生活を支える一員として、NPOや企業など支え手の幅を広げていきたいです。

泉 区

高齢者の外出をみんなでお助け！

～あったらいいなを支える社会福祉施設の取組～

区・区社協（専門機関部会）・CPなど関係機関が、地域の方々とともに、買物など外出に困難を抱える住民を支えるべく、取組をすすめています。



泉区社協
阿部 嘉之



CP 車両で地域のサロンへ

1

取組のきっかけ

♡ 1層 Co の思い

2層 Co を中心とした地域アセスメントや、ケアマネジャー連絡会などで意見交換をした中で、買物やサロン等に行きたくてもその移動手段に乏しいことから、「外出に困難を抱える住民」が各 CP エリアに複数いることがわかり、区域の共通課題となっていました。

一方、社会福祉法の一部改正に伴い地域貢献が責務となった中、区内の社会福祉法人が多く集まる区社協専門機関部会（＊）で、「地域にどんな貢献ができるか」のアンケートを実施しました。そこで集まったアンケートでは、「法人が保有する車両の提供ができる」などの回答がいくつかの法人からありました。

区と1層 Co・2層 Co とで区域の課題解決に向け検討し、専門機関部会の部会長などと議論を重ねた結果、「外出に課題を抱える」住民ニーズは、社会福祉法人の地域貢献の取組とあわせて進めることとなりました。

専門機関部会：施設を運営する社会福祉法人、NPO 法人、医師会、学校（小学・中学・高校）校長会等で構成され、現在区内で 98 団体。区内の諸団体の横のつながりを目指している。

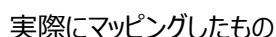


泉区社協 中田さん

専門機関部会で感じることは、積極的に地域に関わりたい！という施設・団体が多いこと。地域と部会、人と人をつなぐ架け橋になれるよう、取り組んでいます。

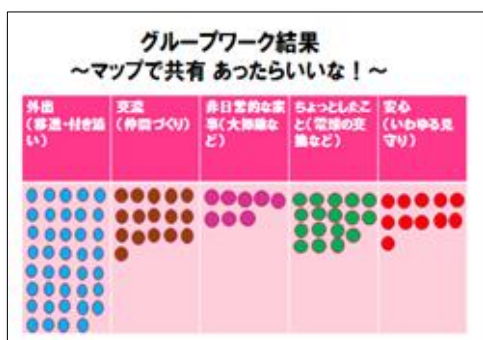
専門機関部会は、高齢や障害分野にとどまらず、児童分野や学校など幅広い世代への支援をしている団体が集まる部会です。その部会の特性を活かし、取組を進めていくことが、「泉区らしさ」を活かした体制整備事業の推進につながるのではないか、と思っています。

取組の内容



同時に、その困りごとの生の声を、予めカテゴリー毎に色分けしたシールを貼っている、ニーズを可視化するためマッピングをおこないました。するとやはり「外出・移動困難者」が多くいることがわかりました。また、介護保険サービスでは充足できないが、「あったらいいな！」というサービスに、「買物ツアー」や、「サロンへの送迎」などが挙げられました。

取組を進めるにあたり、大切にしたいのは、個別・地域ニーズを「継続して」確認していくことです。ニーズを確認せずに取組を進めてしまうと、仕組はできたけど、利用する人がいない、ということにもなりかねないからです。2層 Co とも、エリア毎の地域ニーズを確認・共有しながら、取組を進めていければと思います。



専門機関部会で、上記ケアマネジャー連絡会の報告をしたところ、特別養護老人ホームからは、「車両なら、提供できる」、NPO 法人からは「車両は提供できないけれど、集える場所なら提供できる」・・・など、具体的にそれぞれができることについて活発な意見交換ができました。また CP で既に取り組んでいる、デイサービスの車両を活用した「サロン送迎」など、先行事例が紹介され、「自分たちにもできそうかも」といった取組のイメージが明確化されました。



今後に向けて

移動困難者への取組を進める中で、例えば実際に送迎車を利用した地域住民に、「困りごとの生の声」を確認し、「ちょっとした困りごと」を解決するための新たな社会資源の創出に向け、関係機関と協力しながら、取組を進めていければと考えています。



各区社会福祉協議会 連絡先

区社協名	〒	事務所の所在地	TEL
鶴見区社会福祉協議会	230-0051	鶴見区鶴見中央 4 - 37 - 37 リオベルデ鶴声(かくせい)2 階	504-5619
神奈川区社会福祉協議会	221-0825	神奈川区反町 1 - 8 - 4 はーと友神奈川内	311-2014
西区社会福祉協議会	220-0011	西区高島 2 - 7 - 1 ファーストプレイス 3 階	450-5005
中区社会福祉協議会	231-0023	中区山下町 2 産業貿易センタービル 4 階	681-6664
南区社会福祉協議会	232-0024	南区浦舟町 3 - 46 浦舟複合福祉施設 8 階	260-2510
港南区社会福祉協議会	233-0003	港南区港南 4 - 2 - 8 3 階 港南区福祉保健活動拠点内	841-0256
保土ヶ谷区社会福祉協議会	240-0001	保土ヶ谷区川辺町 5 - 11 かるがも 3 階	341-9876
旭区社会福祉協議会	241-0022	旭区鶴ヶ峰 1 - 6 - 35 ぱれっと旭内	392-1123
磯子区社会福祉協議会	235-0016	磯子区磯子 3 - 1 - 41 磯子センター 5 階	751-0739
金沢区社会福祉協議会	236-0021	金沢区泥亀 1 - 21 - 5 いきいきセンター金沢内	788-6080
港北区社会福祉協議会	222-0032	港北区大豆戸町 13 - 1 吉田ビル 206	547-2324
緑区社会福祉協議会	226-0011	緑区中山町 413 - 4 ハーモニーみどり内	931-2478
青葉区社会福祉協議会	225-0024	青葉区市ヶ尾町 1169 - 22 青葉区福祉保健活動拠点内	972-8836
都筑区社会福祉協議会	224-0006	都筑区荏田東 4 - 10 - 3 港北ニュータウンまちづくり館内	943-4058
戸塚区社会福祉協議会	244-0003	戸塚区戸塚町 167 - 25 戸塚区福祉保健活動拠点内	866-8434
栄区社会福祉協議会	247-0005	栄区桂町 279 - 29 栄区福祉保健活動拠点内	894-8521
泉区社会福祉協議会	245-0023	泉区和泉中央南 5 - 4 - 13 泉ふれあいホーム内	802-2150
瀬谷区社会福祉協議会	246-0021	瀬谷区二ツ橋町 469 せやまる・ふれあい館内	361-2117



1 層生活支援コーディネーター活動事例集

平成 29 年 10 月 発行

発 行 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482

神奈川県横浜市中区桜木町 1-1

横浜市健康福祉総合センター8 階

(地域活動部 地域福祉課)

TEL : 045-201-8616 FAX : 045-201-1620

<http://www.yokohamashakyo.jp>



ほら、
よこはまは
あったかい

この冊子は共同募金配分金で作成されました

